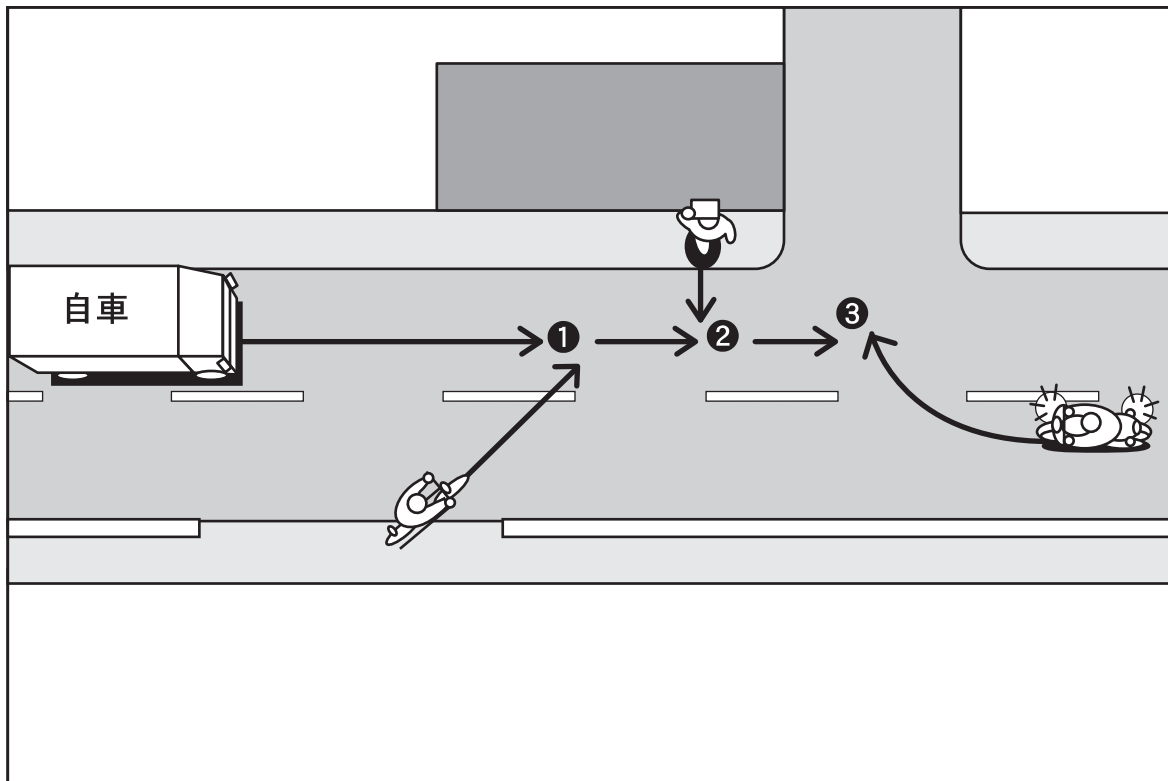


〔トラック5〕雨の降り始めの走行



1．主な危険要因の例

- ① 雨が降り始めたので、道路の右側にいる自転車があわてて道路を横断してくると衝突する危険がある。
- ② 道路の左側にいる歩行者も、雨が降り始めたので早く行こうと道路を横断してくるとはねる危険がある。
- ③ 右の合図を出している二輪車が右折をしてくると衝突する危険がある。

2．安全運転の例

雨の降り始めは傘を持たない歩行者や自転車が、早く行こうとして安全を確認しないまま道路を横断してくることがあるので、歩行者や自転車の動向に十分注意する。

雨の降り始めは路面が滑りやすく停止距離が長くなるので、スピードを落とすとともに車間距離も乾燥した路面より長くとる。

3．乗務員指導のポイント

次のような雨の降り始めの危険性について理解させる。

- ・傘を持たない自転車や歩行者が、いきなり道路を横断するなど危険な行動をとりやすい。
- ・雨の降り始めてからしばらくの間は、路面の塵や泥が路面に浮かんで油をまいたような状態となって滑りやすくなる。
- ・視界が悪くなり危険の発見が遅れやすくなる。

雨の降り始めは上記のような危険があるため、雨が降り始めたらスピードを落とす、歩行者や自転車の動向に注意する、先行車がある場合は車間距離を十分とるなどの指導をする。